

王焱 編

# 日本漢文學百家集

305



北京燕山出版社

王焱 主編

日本漢文學百家集  
305



北京燕山出版社

第三〇五册

弗措先生傳及遺稿 一卷 渡邊弗措著 大正十一年……………一

集杜五言詩 一卷 久貝蓼灣著 嘉永五年……………一〇九

旭川詩鈔 初編 二卷 大賀賢勵著 明治二十年 二編 二卷 明治三十七年……………一四一

船山遺稿 二卷 草場廉著 明治二十四年……………四四三

弗措先生傳及遺稿



弗措先生傳及遺稿



百木暨子批亦久暨子  
 夫之公孫不得一為重  
 福變難斗酒吊孤嫠

丹心似此展淚空也指美余之入其堂其指在何予之曰時多草  
 承以子生名弗指長亦十載天云

成齋律

王 地 山 墓 所



死灰枯木病魔纤  
涖例  
何堪向大都  
好箇松  
筠空在岸  
莫人改宅寄

残軀

明治十三年病中  
秘居某  
生問  
隴中居士頓

謝世  
 敬一  
 同  
 程一  
 杖  
 報  
 芳  
 魂  
 人  
 品  
 安  
 看  
 憐  
 許  
 也  
 洞  
 仙  
 女  
 許  
 清  
 微



序

渡邊弗措先生物故以來既に三十五星霜を経たり予幼時先生の門に入り慶應三年先生の青山侯に扈從し江戸に祇役せらるゝに従遊し前後六七年間其薰陶提撕を受くるや極めて深し先生資性醇厚忠直夙に猪飼敬所翁及昌平校に學ひ學問該博文章雄健を以て頭角を顯はし當時碩學鴻儒と轡を駢へて學界に馳騁するの概ありしと雖先生の志は寧世道人心の經綸に在りて雕蟲推敲の末技に在らず敢て學者を以て自居るを屑とせず隨て門戸を開きて廣く學徒を招徠せさりしに依り後進の其門に及ふもの極めて寥々たり其名聲の汎く天下に著はれさりしは蓋之が爲めなり洵

に惜むへし及門の士關德君其事蹟の遂に湮没に歸するを  
憾み頃者遺聞を拾收し一小傳記を著はし將に印刷に附せ  
んとす予深く其用意の深切なるに感し爲めに一言を題す

大正十一年初夏

門人 田 健次 郎謹識

## 緒言

一、弗翁舊門弟相謀り翁の偉蹟を後世に傳へんごし其編輯を余に託せらる然るに之が資料ご爲すへき記録及詩文稿の如きは再三祝融氏の爲めに奪去られ或は多年間に散逸して現存するもの甚少し只纔に舊藩書記局に在りし舊藩士由緒書の青山家邸に保存せられありて之に由り翁の舊藩に於ける官歴を精確に知るを得るのみ故に今之を根據として或は殘闕の舊記に搜り或は生存の故老に聞き又親戚に質し知人に諮ひ苦心慘愴以て漸く本編を成すを得たりといへども要是崑山の片玉たり滄海の遺珠たり未以て其學問の偉大を發揮するに足らず所

謂之を爲すは猶已むに賢れるものか

一、遺稿の詩、律絶百餘首、雜體文數篇、或は之を故紙中に得、或は之を人の傳寫に得たるもの多く中には其未定稿に屬するものもあるべく玉石混淆、今一々甄別するに由なし而して翁の志は德業經世に在り、詩文の如きは固其緒餘のみ、即雕蟲の末技として多く顧みられざりし所、毫も之を以て其眞價を輕重するに足らざるなり

一、詩文は得るに隨ひ之を録し其年次を細查するを得ず故に少壯年作、晚年作、前後錯綜し、排列順序を成さず、和紀從遊記は其少年作、偶之を或人の手に獲たるを以て亦附記す

一、本編收録外猶其搜索の及はさるもの必多きを知る他日之を得て或は更に追補するの時機あらんか

一、本編編輯に關しては其高足弟子田健次郎君に多く謀る所あり資料亦同君の供給に出つるもの尤多し其他有井武之介川崎精之介塚脇門藏林利幸廣石貞二諸氏も亦其資料蒐集に斡旋せらる此に深く謝意を表す

大正十一年壬戌夏四月

編者識

